

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 6

2014 No.717

3 はじめの言葉

4 合理化／省力化追求で

今も残る負の遺産

田原文夫

先駆的にコンピュータ化された金融機関でも 15:00 になるとシャッターを降ろし、その日の営業活動を停止していた時期があった。かたくなに、従前の営業時間に固執していたのだ。これも、コンピュータ化の本質が従前の人手作業の単純機械化だったという実態を表していた。しかしコンピュータ化の内容がさらに複合化高度化する過程で、仕事の中身を理解し、考えを及ぼせるといふ本質を失ってきた。それが高じて、真の情報処理は人間がするものだという基本認識すら希薄になってきている。非常に危険な「コンピュータ神話時代」が再現されてきているようだ。

1 1 情報社会を考える その 4 5

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

農業と農協の自由化

どこまで本気なのかはわからないが、TPP 交渉が難航している中、「断固として日本農業を守る」という政治公約を掲げて勝利した安倍政権は、農業団体を意識しての農業協同組合（農協）改革をもって、国民の支持を得ようとしているようだ。まさに、かつての小泉政権の断行した郵政民営化にならってのものとも思われるが、果たしてその行方に二匹目のドジョウはいるのか、その真の狙いはいかに。回りくどい言い方はせずと言うが、それほど、本気ではないだろうと思われる。また安倍政権にそれほどの熱意も本気もないだろう。そもそもが、小泉郵政改革も、小泉氏の思い入れであったように見せかけられていたが、それはアメリカの年次要望だった。その意味で、郵政改革同様、農政改革もアメリカの年次要望になっているとみられるが、今現在の情勢からすると、アメリカからの圧力は「さほどでもない」という見方もある。

1 3 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M 構築が必要か その 40

水田 浩

オープンガバメント OG 6 工業化社会をデジタル化する

社会全体が工業社会から情報社会に移る第一段階では ICT（情報通信技術）が個々の組織の効率化のために、それぞれが独立して導入され、第二段階では工業社会の組織はそのままにして組織間を ICT で統合してゆく。社会全体を情報社会に変える準備段階である。

第一段階での最初のデジタル化運動が 1994 年から世界規模で行われたCALS運動であった。そして次に行われたのが電子政府運動であった。

19 連載 アーキテクチャ論 (38)

ArchiMate テクノロジー層の保証手法

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本連載では、オープングループのアーキテクチャ記述言語である Archimate[1] (アーキメイト) の 3 階層モデルを紹介した。階層には、ビジネス層、アプリケーション層、テクノロジー層がある。この階層ごとに保証方法を構成できる。本稿では、ディペンダビリティケースを用いて、テクノロジー層モデルの妥当性を保証する手法について考察する。また、メタモデルに対する保証ケースを作成することにより、モデルに対する保証ケースの参照パターンを定義することができることを紹介する。

31 IT 新時代とパラダイム・シフト

第56回 2045年、AI ロボットが

人間の知性を凌駕する？

根本忠明

気がついてみると、我々の身の回りにロボットという用語が氾濫している。このロボットは人間を支援するだけでなく、人間の能力を凌駕する AI (人工知能) も登場し、レイ・カーツワイルの「2045年にAIが人間の知性を超える」が、現実味を帯びてきている。今回は、この話題を中心に、人間とロボットのあり方を、考えてみることにしたい。

34 続インテリジェンスへのいざない 53

マスコミ前線の異常

試されるインテリジェンス

今井 武

大手マスコミ紙誌／テレビによる横並び報道は、衆知の通りである。記者が、あるいはデスクが、いかに己の責任と度胸、そして何と云って良心に基づいた記事を書いていないかの証左だと言われてきている。ところが、そんな「報道前線に異常有り」を感じさせるアンケート調査結果、世論分析が登場している。極端な場合、同じ案件でありながら、真逆／正反対の世論調査結果が分析報告されている事例もあるようだ。果たしてこの現象、マスコミ紙誌が真の報道精神を取り戻し、襟を正そうとしているのか、それとも、真逆／正反対に、時の権力に恥も外聞も取り払って擦り寄ろうとしているのか。読み手／受け手のインテリジェンスが試されようとしている。

37 一味違うウェブ検索

第四十四話 資料の読み方・探し方 (2)

ぐうのうえぶへい

今回は、前回に引き続き、調べる資料の読み方・探し方について説明する。それは、①資料に書かれている内容を正しく読み取る、②資料に書かれていない内容を調べる、③資料から意外性のある情報を発見しプラス α を加味した内容に仕立てる、の3つである。

39 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最新のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	インターネット関連の苦情と不正アクセス
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300)
A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300)
A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港手帳の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米園チーム解散の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなメンバー
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米園事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港手帳とハンタツ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本音暴露日誌
第八章 米園チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米園チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安室隆雄と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp